

「子どもたちの貢献」にありがとう！

主幹教諭 松井 直樹

朝晩の冷え込みや木々の色が変化する中で、「本格的な秋」が深まりつつあります。保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。本年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、家庭での生活において様々な工夫がされていることと推察されます。一方で「新しい生活様式」への変化から心身ともに「疲れ」も感じられているのではないのでしょうか。過日開催いたしました、令和2年度運動会は特別な環境での実施でしたが、夢中になって運動に取り組む子どもたちの姿は、保護者の皆様の日頃の「苦労」や「疲れ」を「元気・エネルギー」に変える一助につながったのではないのでしょうか。今後も子どもたちの「笑顔」のために、ご家族皆様とともに健やかな生活を送ることを願います。

さて、私は1階にある「教務室」を自分の教室のつもりで、毎日生活しています。この教室には学級の枠を超えてたくさん子どもたちがやってきます。「〇〇先生、いらっしやいますか」「〇〇の用事で来ました」な様々な用事で訪れ、校内でもおそらく3本の指に入る「繁盛教室」です。その中で、「・・に落とし物がありました」と落とし物を届けてくれる子どもたちがいます。現在の落とし物ランキング第1位は衣類、第2位は水筒、第3位は文房具です。私はその子どもたちに「届けてくれてありがとう」と声をかけ、そして見送る子どもの背中に「いいことがありますように」と心で語り掛けます。

本校の学校教育目標の一つに「支え合い、ともに生きる子ども」という目標があります。本校では、学級はもとより特色的な教育活動である生活団活動に代表されるように、「支え合いながら」生活する場面が多い学校です。私はさまざまな他者と「支え合いながら生活をする」子どもたちの学校という社会は「貢献」の学びをする場でもあると考えています。「貢献」という言葉は「何かのために力をつくして寄与すること」という意味に使われます。私たちの現在の社会でも、それぞれの人間がさまざまな立場で貢献しながら生きています。学校はその基本的な体験の場であるのです。例えば11月に実施される「きくまつり」では、1年生から6年生まで、自分ができるところを見つけて団活動に「貢献」します。自分の物でもないのに、落とし物を届けてくれる「やさしさ貢献」、廊下では「走っちゃ危ないよ」と友達の安全に気をかけてくれる「安全貢献」、運動会の全校での前日準備に「何かできることはありませんか」と積極的に活動している「明日への準備貢献」、子どもたちは様々な種類の貢献活動をしてきているのです。そんな子どもたちの「貢献」に私たちは「ありがとう」という気持ちを様々な方法で伝えましょう。子どもたちに伝える「感謝の気持ち」は、子どもたちの大切なところに栄養を与えると私は信じています。

これからも私は「私の教室」から子どもたちに「ありがとう」の気持ちを伝えます。そして、栄養たっぷりの子どもたちが私の教室に笑顔でまた現れてくれることを楽しみにしています。